竹の前遺跡発掘調査報告書

―平成 26 年度　姫路市手柄字竹ノ前 158 番地 1 他における発掘調査報告―

調査地（北西から）

２０１４

姫路市教育委員会

1. 調査に至る経緯・経過

姫路市手柄字竹ノ前158番1、同字浜田345番1において株式会社ＮＴＴファシリティーズによる店舗の建設工事が計画された（図1・2）。対象地の一部は竹の前遺跡（県遺跡番号020435）に該当するため、平成26年（2014年）5月13日・14日に試掘・確認調査（調査番号20140076）を実施した。この結果、竹の前遺跡の範囲内及びその北側でも遺構が確認された。その後、開発主体者と協議を重ねた結果、建設計画の変更は困難との結論に至り、建築物の基礎部分を対象に本発掘調査（調査番号20140190）を実施する運びとなった。調査期間は平成26年（2014年）7月17日～24日、調査面積は101.32㎡である。現地調査終了後、出土品等の整理作業を開始し、本書の刊行をもって完了した。

調査体制は以下のとおりである。

調査組織

姫路市教育委員会

教育長	中杉隆夫
教育次長	林　尚秀
生涯学習部長	小林直樹
文化財課長	福永明彦
文化財課係長	大谷輝彦（調整）

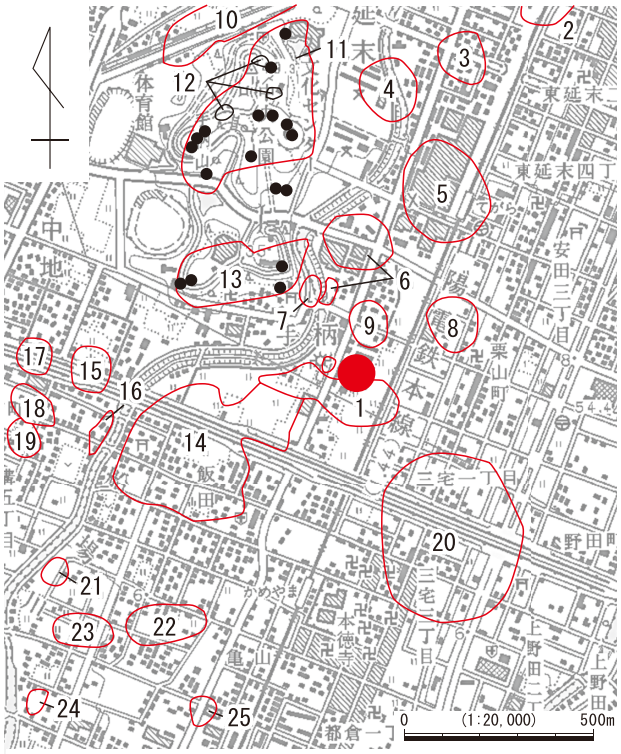
調査機関

姫路市埋蔵文化財センター

館長	秋枝　芳
係長	岡崎政俊（事務）
同	森　恒裕（調整）
技術主任	福井　優（試掘・確認調査）
同	南　憲和（本発掘調査・整理）
主事	小林啓佑（事務）

2. 調査の概要

調査区は、建築物の基礎部分を対象に22箇所（1～22区）に設定した。調査地の基本層序は、地表から約1ｍの現代の盛土、約15cmの耕土、約5～10cmの暗灰黄色シルト質細砂（遺物包含層）が存在し、明黄褐色シルト質粘土（基盤層）が標高5.7mで認められた（図3）。3～14・18・19区では暗灰黄色シルト質細砂と基盤層の間に明黄褐色粘質土が介在してい



1．竹の前遺跡　2．君田遺跡　3．村淵遺跡　4．橘詰遺跡　5．黒表遺跡
6．小山遺跡　7．生矢神社裏遺跡　8．古屋敷遺跡　9．浜田遺跡　10．山崎遺跡
11．手柄山北丘群集墳３～12号墳　12．手柄山北丘遺跡　13．手柄山南丘遺跡
14．畑田遺跡　15．長越遺跡　16．湯田遺跡　17．邨東遺跡　18．東久保遺跡
19．大町遺跡　20．三宅遺跡　21．カスカエ遺跡　22．善慶田遺跡
23．飯田カスカエ遺跡　24．笹山田遺跡　25．石ヶ坪遺跡

図1　遺跡の周辺環境

図2　調査地位置図

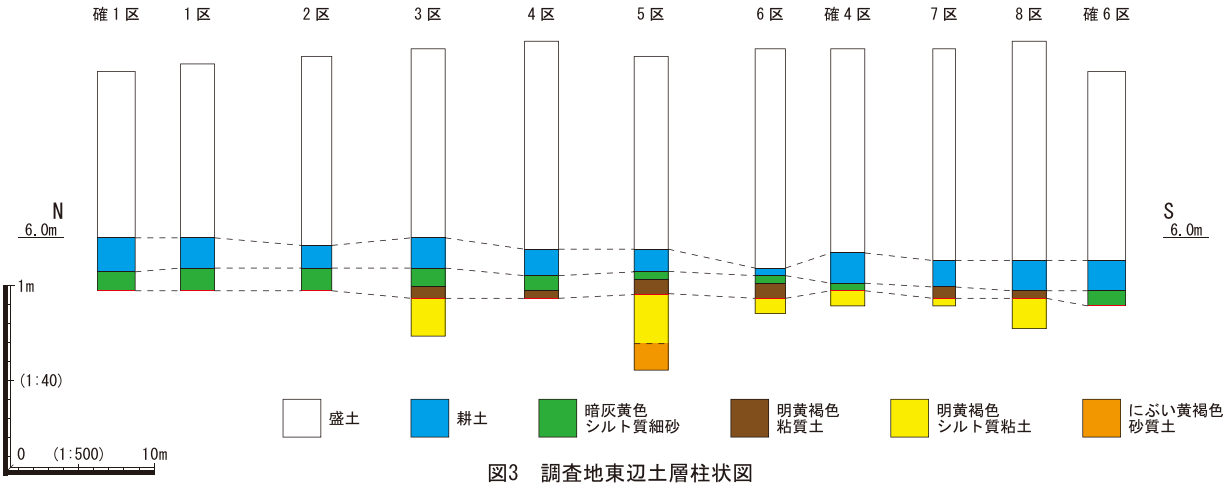


図3　調査地東辺土層柱状図

た。遺構の検出は基盤層の面でおこなった。検出した遺構は、溝、土坑、ピット等である（図4）。

1区（図6・写真1）　土坑3基（SK1～3）とピット6基を検出した。

SK1は南北1.5m以上、東西0.4m以上の規模をもち、検出面からの深さは15～30cmを測り一定しない。遺物は土師器皿（図5－1・2）、瓦器椀（図5－3）が出土した。1・2は手捏ねで、口径は1が8.6cm、2が12.8cmを測る。1は底部から屈曲して短く立ち上がり口縁端部は丸くおさめる。2は底部から緩やかに立ち上がり口縁部はヨコナデによりやや外反し、端部は丸くおさめる。3は口径13.5cmを測る。扁平化が進んだ形態で、口縁部はヨコナデにより僅かに外反し端部を丸くおさめる。体部内面のヘラミガキの間隔は広く口縁部に平行せず斜めに施される。外面にヘラミガキは観察されない。和泉型の13世紀前半から中頃（森島編年Ⅲ－3期又はⅣ－1期）に相当するとみられる（註1）。

SK2から土師器皿（図5－4）、須恵器椀（図5－5）が出土した。4は手捏ねで口径は7.6cmを測る。底部から内湾しながら短く立ち上がり口縁端部は上向き気味に丸くおさめる。5は口径16.1cmを測る。直線的な体部をもち口縁端部は丸くおさめる。端部外面に重ね焼きの痕跡がみられる。胎土には黒色の粒子が目立つ。11世紀末から12世紀代の年代観が与えられる（註2）。

SK3から須恵器椀（図5－6）が出土した。口径13.6cmを測る。体部は直線的で端部はやや肥厚し丸くおさめる。灰白色を呈し軟質で胎土もやや粗く、全体的に粗雑な印象を受ける。

ピットの埋土は灰黄褐色シルト質粘土であった。

2区（図6・写真2）　溝1条（SD1）、ピット7基を検出した。SD1は幅約45cmで、深さは12cm前後で底部に凹凸があり一定しない。埋土はにぶい黄褐色粘質土であり、遺物は出土しなかった。ピットの埋土はP11がにぶい黄褐色であった以外は灰黄褐色シルト質粘土であった。

3区（写真3）　ピット3基を検出した。埋土はにぶい黄橙色シルト質細砂であった。

4区　明確な遺構及び遺物は検出されなかった。

5区　明確な遺構及び遺物は認められなかったが、西壁から南壁にかけて落ち込みを検出した。埋土はにぶい黄褐色シルト質粘土で地山ブロックを斑状に含んでいた。

6区（写真4）　ピット3基を検出した。埋土は灰黄褐色を呈す。P15から図化には耐えなかったが、体部が内湾し口縁端部が外反する須恵器椀が出土した。10世紀前半から11世紀代の所産と思われる。

7区（写真5）　土坑1基を検出した。埋土はにぶい黄橙色シルト質粘土であり、遺物は出土しなかった。

8区　明確な遺構及び遺物は検出されなかった。

9区（写真6）　明確な遺構及び遺物は認められなかったが、北壁から南東端にかけて落ち込みを検出した。埋土は5区で検出したものと酷似していた。

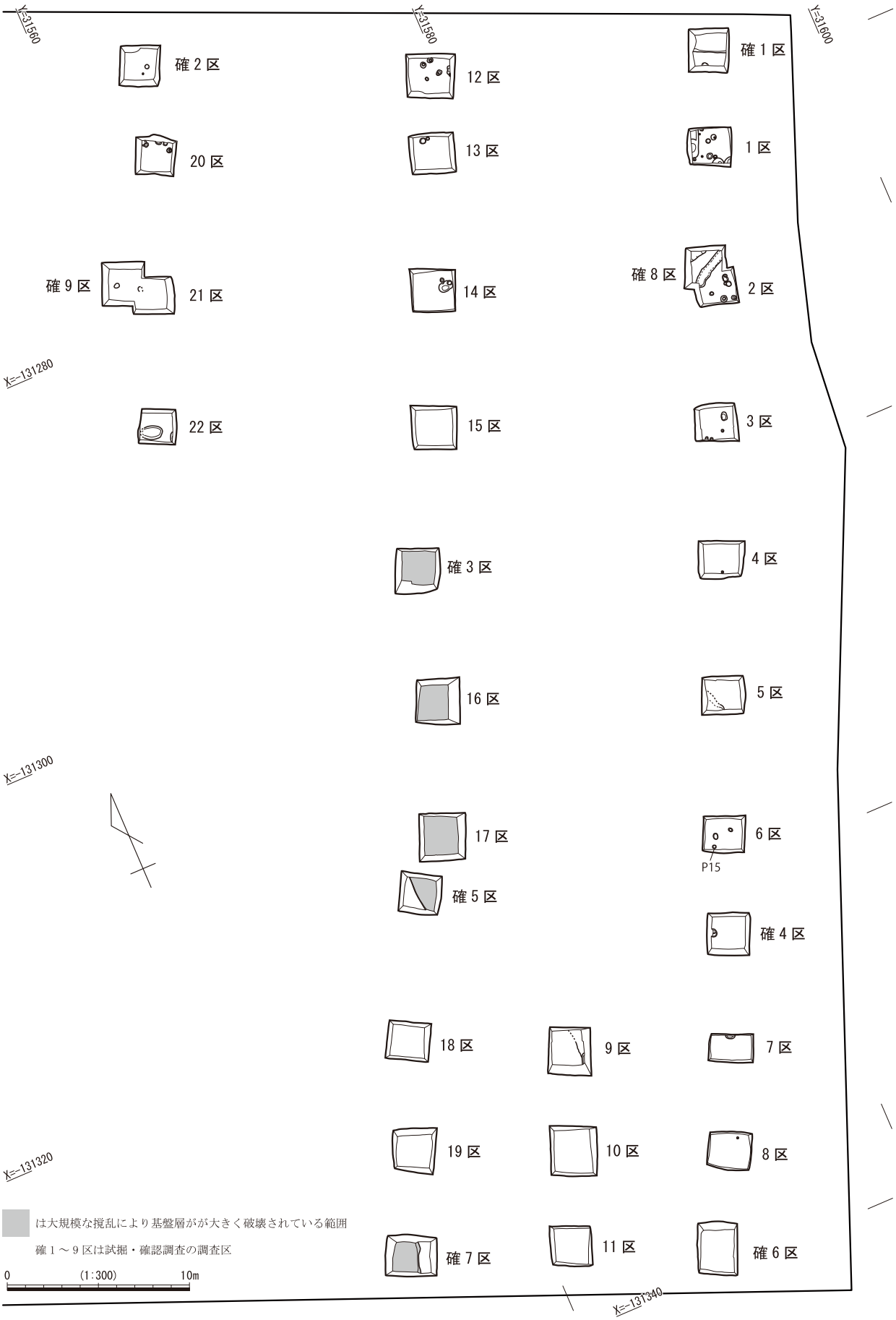

Y=31560
Y=31580
Y=31600
確 2 区
12 区
確 1 区
20 区
13 区
1 区
確 9 区
21 区
14 区
確 8 区
2 区
X=131280
22 区
15 区
3 区
確 3 区
4 区
16 区
5 区
X=131300
17 区
6 区
P15
確 5 区
確 4 区
18 区
9 区
7 区
19 区
10 区
8 区
X=131320
確 7 区
11 区
確 6 区
X=131340
は大規模な撹乱により基盤層がが大きく破壊されている範囲
確１～９区は試掘・確認調査の調査区
0
(1:300)
10m

図4　遺構全体図

10区（写真7）　遺構及び遺物は検出されなかったが、明黄褐色粘質土と基盤層の間に約5～10cmのにぶい黄褐色シルト質粘土が介在する。基盤層の検出高は標高5.7mを測る。

11区　明確な遺構及び遺物は検出されなかった。

12区（図6・写真8）　ピット5基を検出した。P17から土師器皿（図5－7・8）が出土した。7・8は手捏ねで、口径は7が8.0cm、8が8.3cm、器高はともに1.6cmを測る。底部から内湾して短く立ち上がり口縁端部は丸くおさめる。P21から土師器皿（図5－9）が出土した、9は底部ヘラ切りで、底部から屈曲して短く立ち上がり口縁端部はやや尖り気味におさめる。口径9.4cm、器高1.7cmを測る。胎土はやや粗く、黒色の粒子が目立つ。ピットの埋土は灰黄褐色を呈す。

13区（写真9）　ピット2基を検出した。埋土は灰黄褐色を呈す。

14区（写真10）　ピット2基を検出した。埋土は北側のピットがにぶい黄褐色で南側が灰黄褐色を呈す。

15区　明確な遺構及び遺物は検出されなかった。

16区　調査区全体が大規模な撹乱内に位置し、標高5.0mまで掘削したが基盤層を検出しなかった。

17区　調査区全体が大規模な撹乱内に位置し、標高4.7mまで掘削したが基盤層を検出しなかった。

18区　明確な遺構及び遺物は検出されなかった。

19区　明確な遺構及び遺物は検出されなかった。

20区（図6・写真11）　ピット5基を検出した。埋土は灰色又は灰オリーブ色シルト質粘土であった。遺構検出中に弥生土器片が出土した。その胎土・焼成から弥生前期のものと思われる。

21区　明確な遺構及び遺物は検出されなかった。

22区（写真12）　暗灰黄色シルト質細砂と基盤層の間に灰褐色シルト質粘土が介在する。基盤層の検出高は標高5.7mを測る。中央部で灰褐色シルト質粘土の土坑状の落ち込みを検出した。深さ6cm前後で一定しない。この層から弥生土器壺又は甕の底部（図5－10）のほか、4条以上のヘラ描き沈線文を施した弥生前期の土器破片が出土した。

3. まとめ

今回の調査では、1～3・12～14・20・21区の北半部の調査区で平安後期から鎌倉前期のピットを中心とした遺構が検出されたが、逆にその分布域は南半部まで広がらない傾向が明らかになった。竹の前遺跡の既往の調査では、西方約150～200mの地点で3間×2間以上（35.0㎡以上）の総柱掘立柱建物及び11世紀後半から12世紀前半頃には機能していたとみられる溝（註3）、3間×5間以上（115.5㎡以上）の大型の総柱掘立柱建物（註4）などが検出されている。今回の調査で13世紀代の遺構がみつかったことは、古代末から中世前期における村落の動態を知るうえで貴重な成果を得たと考えられる。

註1　尾上実・森島康雄・近江俊秀 1995「瓦器椀」『概説 中世の土器・陶磁器』 真陽社
註2　森内秀造 1995「相生窯址群における平安期の遺物について」『相生市・緑ヶ丘窯址群Ⅱ』 兵庫県教育委員会、池田正弘・服部寛 2003「まとめ」『相生市・緑ヶ丘窯址群Ⅲ』 兵庫県教育委員会、森田稔 1986「東播系中世須恵器生産の成立と展開－神出古窯址群を中心に－」『神戸市立博物館研究紀要』第3号 神戸市立博物館
註3　上田健太郎 2012「竹の前遺跡の遺構と遺物」『長越遺跡Ⅲ』兵庫県教育委員会
註4　姫路市教育委員会 2015『竹の前遺跡・畑田遺跡発掘調査報告書』

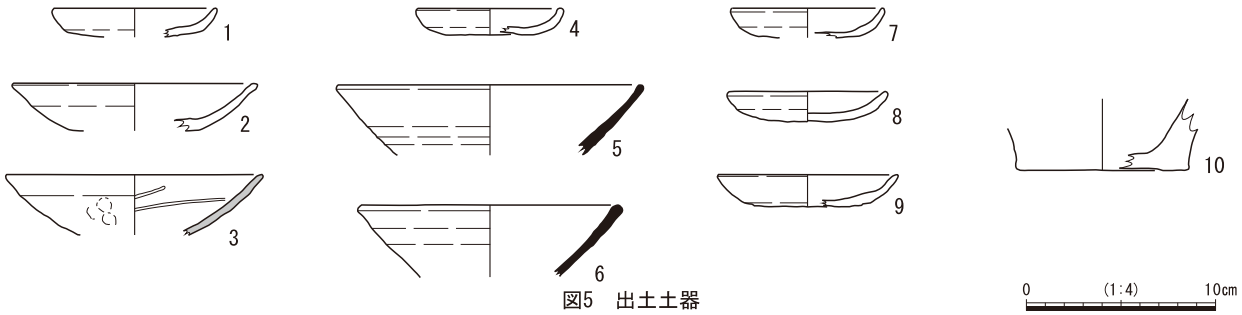
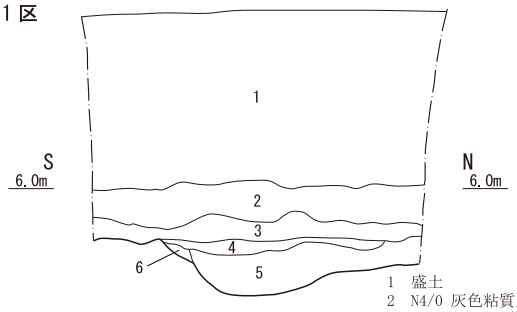
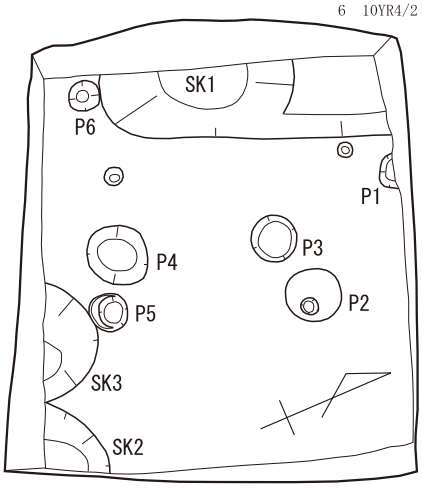


図5　出土土器

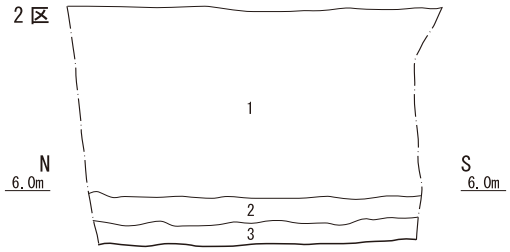
1区



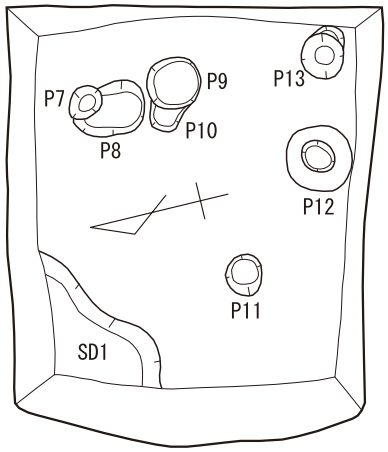
1　盛土
2　N4/0 灰色粘質土　耕土
3　2.5Y5/2 暗灰黄色シルト質細砂
4　10YR6/2 灰黄褐色シルト質粘土 SK1 埋土
5　10YR5/3 にぶい黄褐色シルト質粘土 SK1 埋土
6　10YR4/2 灰黄褐色シルト質粘土 SK1 埋土



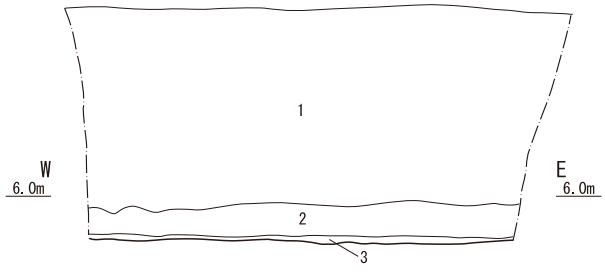
2区



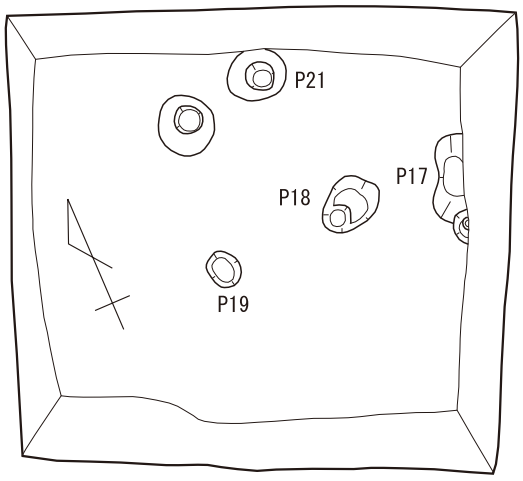
1　盛土
2　N4/0 灰色粘質土　耕土
3　2.5Y5/2 暗灰黄色シルト質細砂



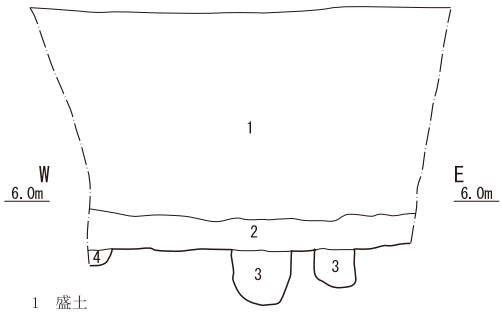
12区



1　盛土
2　N4/0 灰色粘質土　耕土
3　10YR6/8 明黄褐色粘質土



20区



1　盛土
2　N4/0 灰色粘質土　耕土
3　5Y4/2 灰オリーブ色シルト質粘土
4　5Y4/1 灰色シルト質粘土

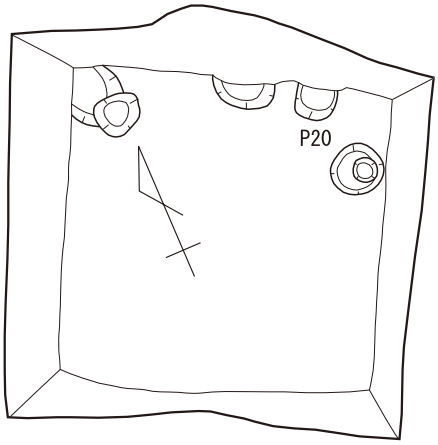


図6　1・2・12・20区　平・断面図

0　(1:40)　1m

写真１　１区（東から）

写真２　２区（南から）

写真３　３区（北から）

写真４　６区（南から）

写真５　７区（南から）

写真６　９区（東から）

写真７　10区（東から）

写真８　12区（北から）

写真 9　13 区（南から）

写真 10　14 区（南から）

写真 11　20 区（南から）

写真 12　22 区（北から）

報　告　書　抄　録

ふ り が な	たけのまえいせきはっくつちょうさほうこくしょ
書　　名	竹の前遺跡発掘調査報告書
副　書　名	平成26年度　姫路市手柄字竹ノ前158番1他における発掘調査報告
巻　　次	
シ リ ー ズ名	姫路市埋蔵文化財センター調査報告
シリーズ番号	第28集
編 著 者 名	南　憲和
編 著 機 関	姫路市埋蔵文化財センター
所　在　地	〒671-0246　兵庫県姫路市四郷町坂元414番地1　TEL（079）252-3950
発 行 年 月 日	2015年3月31日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
たけのまえいせき 竹の前遺跡	ひょうごけんひめじしてがら 兵庫県姫路市手柄 あざたけのまえ 字竹ノ前158番1他	28201	020435	34度 48分 57秒	134度 40分 42秒	2014.7.17 ～ 2014.7.24	101.32㎡	店舗建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特　記　事　項
竹の前遺跡	集落遺跡	平安・鎌倉時代	土坑、ピット	弥生土器・土師器・須恵器・瓦器	

1　本書は、姫路市手柄字竹ノ前158番1他で実施した竹の前遺跡発掘調査の報告書である。
2　調査は、ＮＴＴファシリティーズからの委託を受け、姫路市教育委員会が実施した。
3　本発掘調査は、姫路市教育委員会埋蔵文化財センターの南憲和が担当した。
4　本書の執筆・編集は南憲和がおこなった。
5　調査に関する写真・図面等の調査記録、出土品は姫路市埋蔵文化財センターに保管している。広く活用されたい。
6　標高値は、東京湾平均海水準(T.P.)を基準としている。方位は世界測地系に準拠する平面直角座標系第Ⅴ系の座標北を示す。
7　土層図の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局・財団法人日本色彩研究所監修『新版　標準土色帖』に準拠した。
8　遺構は、原則的にアルファベットと数字を組み合わせた略号で表記した。
略号はSD一溝、SK一土坑、P一柱穴・ピットをあらわす。

姫路市埋蔵文化財センター調査報告　第28集
竹の前遺跡発掘調査報告書
一平成26年度　姫路市手柄字竹ノ前158番1他における発掘調査報告一

編　集　姫路市埋蔵文化財センター
〒671-0246　兵庫県姫路市四郷町坂元414番地1
発　行　姫路市教育委員会
〒670-8501　兵庫県姫路市安田四丁目1番地
発行日　平成27年(2015年)3月31日
印　刷　松尾印刷株式会社